

115 生き生きとした中庭**

COURTYARDS WHICH LIVE



死んだ中庭

中庭が失敗する顕著な原因が3つ考えられる。

1. 屋内と屋外とのあいだにあいまいな領域がない。屋内から屋外へ導く壁、引き戸、ドアなどが唐突すぎると、両者の中間でためらい、一瞬のひらめきで屋外に出るような機会が失われてしまう。人にはあいまいな中間領域が必要である——つまり、住居内の日常生活でたびたび通り過ぎながら、ごく自然に屋外にさまよい出られるようなポーチとかベランダである。

2. 中庭に出るドアが少ない。ドアが1つしかない、住居内に中庭をはさむ2つの活動が成立しないから、中庭を通して日常的にそこを気分づけるということがない。これを克服するには、中庭の両端に少なくとも2つのドアを設けねばならない。そうすれば中庭が異なる活動の合流点になり、近道になり、受け皿になり、双方の活動に交流が生まれるのである。

3. 中庭が閉鎖的すぎる。居心地のよい中庭には、つねに何かより広く遠い空間を見通せるような「抜け穴」があるように思える。中庭を完全に部屋で囲まずに、何か先の空間が少しでも垣間見えるようにすべきである。

現代建築に組み込まれた中庭は、大抵の場合、死んだ空間である。私的に使用するオープンスペースとして意図されているにもかかわらず、結局、砂利と抽象彫刻に埋まった無用の長物に終わっている。

つぎに、世界各地の生き生きとした中庭の例を、大小とり混ぜて示すことにする。



生き生きとした中庭

どれも周囲の建物の活動に部分的に開かれているが、なお私的な空間である。そこを通りぬける人や走りぬける子供たちを、垣間見たり感知できるが、中庭の雰囲気はぶち壊すほどではない。もう一度、どの中庭も別の空間と強いつながりをもつことに注目されたい。これらの写真がすべてを物語るわけではないが、中庭から通路ぞいに、または建物を貫通してより大きな空間を見通せることが分かる。さらに最も注目すべきは、どの中庭でも、天気と気分しだいでさまざまな場所を占

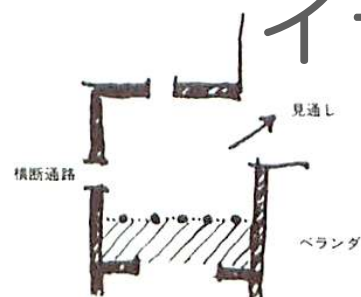
められるということである。そこには、庇のかかっている場所、日の当たる場所、木もれ日の落ちる場所、地面で横になれる場所、居眠りのできる場所などが備わっている。中庭の外周部と隅部はいまいで豊かな表情をもち、建物の壁面は開かれており、中庭と建物内部が直接つながっている部分もある。

したがって、

どんな中庭でも、つねにより大きな屋外空間を見通せるように配置すること。周囲の建物に少なくとも2、3か所ドアを設け、これらのドアを結ぶ自然な通路が中庭を横切るようにすること。さらに中庭の一边のドアの脇に、屋内と中庭の両方に連続する屋根つきのベランダかポーチを設けること。

解答

イラスト



アーケード (119)、外廊 (166)、一間バルコニー (167) にしたがってポーチをつくり、日当りを確保すること——日のあたる場所 (161)。段階的な屋外空間 (114) と禅窓 (134) にしたがって、外側への見通しを用意すること。戸外室 (163) や庭園 (173) のような造りにして、さらに中庭を囲うこと。中庭の周囲の軒高は、同じ高さにする。切妻屋根が面する場合は、寄棟にして軒先の高さを

上位リンク

問題

詳しい検討

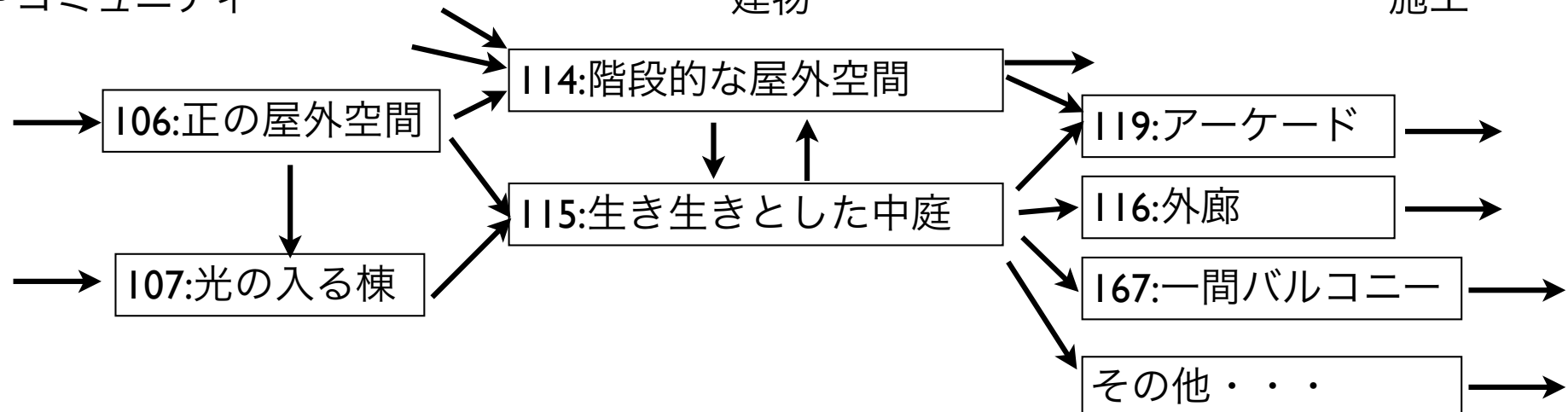
下位リンク

大 ← 粒度 → 小

町やコミュニティ

建物

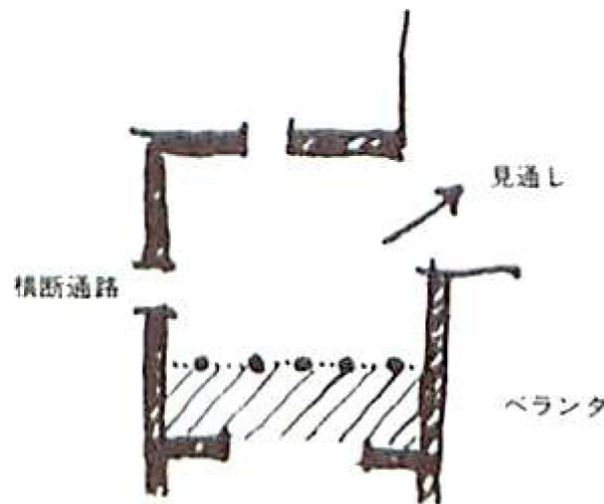
施工



問題

現代建築に組み込まれた中庭は、大抵の場合、死んだ空間である。私的に使用するオープンスペースとして意図されているにもかかわらず、結局、砂利と抽象彫刻に埋まった無用の長物に終わっている。

イラスト



解答

- どんな中庭でも、つねにより大きな屋外空間を見通せるように配置すること。
- 周囲の建物に少なくとも2，3カ所ドアを設け、これらのドアを結ぶ自然な通路が中庭を横切るようにすること。
- さらに中庭の一辺のドアの脇に、屋内と中庭の両方に連続する屋根付きのベランダかポーチを設けること。

